

# たくさんのご協力に感謝を込めてー ボランティア活動報告会

多くの保護者のみなさまに支えていただいているボランティア活動について、2月25日にボランティア活動報告会を開催し、51名の保護者にご参加頂きました。昨年12月末までに10時間以上、または5回以上ご参加くださった保護者をお招きし、日頃のご協力への感謝をお伝えするとともに、これまでの活動を振り返りました。

2025年4月から12月末まで、196名の保護者のみなさまにご参加いただき、総活動時間は3000時間にものぼりました！日々の温かいご協力に、心より感謝申し上げます。

ボランティア活動では、幼稚園の制作物のお手伝い、フレンドクラブやプレミアエレメンタリーの教材準備、行事で使用するための物の制作やラッピングなど、さまざまな場面でお力添えをいただきました。また、Fitkidsでは体育の先生の補助として、子どもたちの体育活動を一緒にサポートしていただいています。



参加された保護者からは、「他学年の保護者の方と交流できて楽しい」「明泉の教育をより身近に感じられる」「子どもと幼稚園の話題が増えてうれしい」といった声も寄せられています。ボランティアを通して、園や子どもたちとのつながりを感じていただけていることをとてもうれしく思います。

**2026年度も、たくさん保護者のみなさまのご参加をお待ちしております！**

明泉保護者サイト「ボランティア募集」にて登録いただいた方、ボランティアの案内をお送りします。



## 同窓生

木村南 (Natalie)  
高森フレンドクラブ35回生

こんにちは。高森35回生の木村南(旧姓：菅原)です。現在は宮城県内の公立中学校で英語科の教員として勤務しています。

私はキンダー(現在の年中)からハイスクールまでの13年間を明泉で過ごしました。明泉での思い出を挙げればきりがありませんが、英語の授業はもちろん、授業前後に友達と遊ぶ時間がただただ楽しく、明泉に通うことが大好きでした。時には英語がうまく発音できなかったり、先生が話している意味が分からなかったりして悔しい気持ちになることもありましたが、それでも続けることができた



オーストラリア短期留学時ホストファミリーと

のは粘り強く温かく向き合ってくださった明泉の先生方のおかげだと思っています。

私が英語科教員を志したきっかけの一つが、明泉での経験を通して身につけた力を実感したことです。高校1年生の時、明泉の短期留学プログラムでオーストラリアに行き、英語を話せることや理解できることが自分の視野、価値観、人とのつながりを広げてくれた

明泉での日々は本当に貴重な時間です。明泉に通うことができることは当たり前ではありません。ご両親や先生方への感謝を忘れないでほしいです。そして、明泉で過ごす時間、英語の授業、さまざまなイベントなどを思いきり楽しんでください。明泉での経験が必ず、あなたの力になります。応援しています！



写真右：南さん



丸山「おひさまの丘」からの泉中央方面

そのような中、1978年4月に高森明泉幼稚園が開園し、私も高森へ異動となりました。初年度は園児176名、教職員9名でのスタートでしたが、2年目に約350名、3年目には12クラス・約540名へと増加し、2学年(現在の年中・年長)だけで両園合わせて1000名を超える規模へと成長しました。

### 躍進の20年 教育の拡充と理念の成熟

次の20年間は、創成期に築かれた経験と基盤の上に、教育内容を成熟させていった時期でした。後半には両キャンパスの教室棟の新築を機に、新しい試みが次々と始まりました。

3年保育への移行による年少児の受け入れ、夕方まで園児を預かるデイケア、未就園児向けカンガルークラブ、中高生向け英語「ハイスクールクラス」など、多彩なプログラムが誕生しました。



園長 ダニエル・ファンガー

### 創成の20年 祈りの中に築かれた基盤

1967年の開園当時、仙台市泉区は人口約2万4000人の小さな町でした。丸山の丘から見える景色は田んぼと農家が広がり、南や西は山に囲まれていました。「この場所に幼稚園を建てても園児が集まるのだろうか」と、多くの方が心配していたと聞いています。

ちょうど50年前の1976年春、私は英語教諭として明泉に赴任しました。教室から外を見ると野うさぎが跳ね、タヌキやキツネが姿を見せるなど、周囲は自然に満ちていました。当時、園児募集には毎年定員の2倍以上の申し込みがあり、地域から寄せられる期待の大きさを肌で感じていました。



丸山「おひさまの丘」からの泉中央方面

そのような中、1978年4月に高森明泉幼稚園が開園し、私も高森へ異動となりました。初年度は園児176名、教職員9名でのスタートでしたが、2年目に約350名、3年目には12クラス・約540名へと増加し、2学年(現在の年中・年長)だけで両園合わせて1000名を超える規模へと成長しました。

### 躍進の20年 教育の拡充と理念の成熟

次の20年間は、創成期に築かれた経験と基盤の上に、教育内容を成熟させていった時期でした。後半には両キャンパスの教室棟の新築を機に、新しい試みが次々と始まりました。

3年保育への移行による年少児の受け入れ、夕方まで園児を預かるデイケア、未就園児向けカンガルークラブ、中高生向け英語「ハイスクールクラス」など、多彩なプログラムが誕生しました。

## 創立60年目の春

宮城明泉学園は、この新年度に創立60周年を迎えます。卒業生は25,000人を超え、現在は国内外のさまざまな分野で多くの卒業生が活躍しています。園児も教職員も3世代にわたるようになり、学園の歩んできた歴史の長さを実感するとともに、地域社会のみならず、歴代の保護者のみなさま、そして天の神様からいただいた、数えきれないほどの恵みと祝福を深く覚えています。

### この期間には、ロゴマークやバスデザイン、新制服の導入など象徴的な変化も重なり、学園として大きな躍進を遂げました。



### 革新の20年 新生の息吹が芽生える時代

2006年春、明泉学園は創立40周年を迎え、前園長フィリップ・ブローマン先生が退任され、私が園長を引き継ぐことになりました。その少し前から理事会では、これからの学園の方向性について議論が重ねられ、英語プログラムとカリキュラムを大幅に刷新する方針が決まりました。

その方針に基づき、プリマスクールの設立、新英語カリキュラム GrapeSEEDの開発、EXクラスの開講などに取り組み、英語プログラムは大きく飛躍しました。

同時に、日本語保育カリキュラムも強化し、歌・文字・体育・アートなど各プログラムの充実、FitKids体育教室の開講など、次の時代を見据えた基盤づくりを進めてきました。

2016年には創立50周年を多くの祝福の中で迎え、その後10年間で丸山にフレンズスクエアとタドラ棟が完成し、両園で2歳児のタドラークラスが開設され、正式に4年保育がスタートしました。



Fitkids体育教室の様子



発行日：2026年5月10日

発行：宮城明泉学園 www.meyсен.ac.jp

Friends Newsletterは年に4回、カンガルークラブからハイスクール、同窓生などに関するニュースをお届けする学園ニュースレターで、明泉サイトでも公開しています。



本紙で引用している聖書は、以下の聖書によります。聖書 新改訂 © 新日本聖書刊行会

## Bible verse

私たちの国籍は天にあります。そこからイエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。キリストは、万物をご自分に従わせることさえてできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます。

ピリピ人への手紙 3章 20-21節

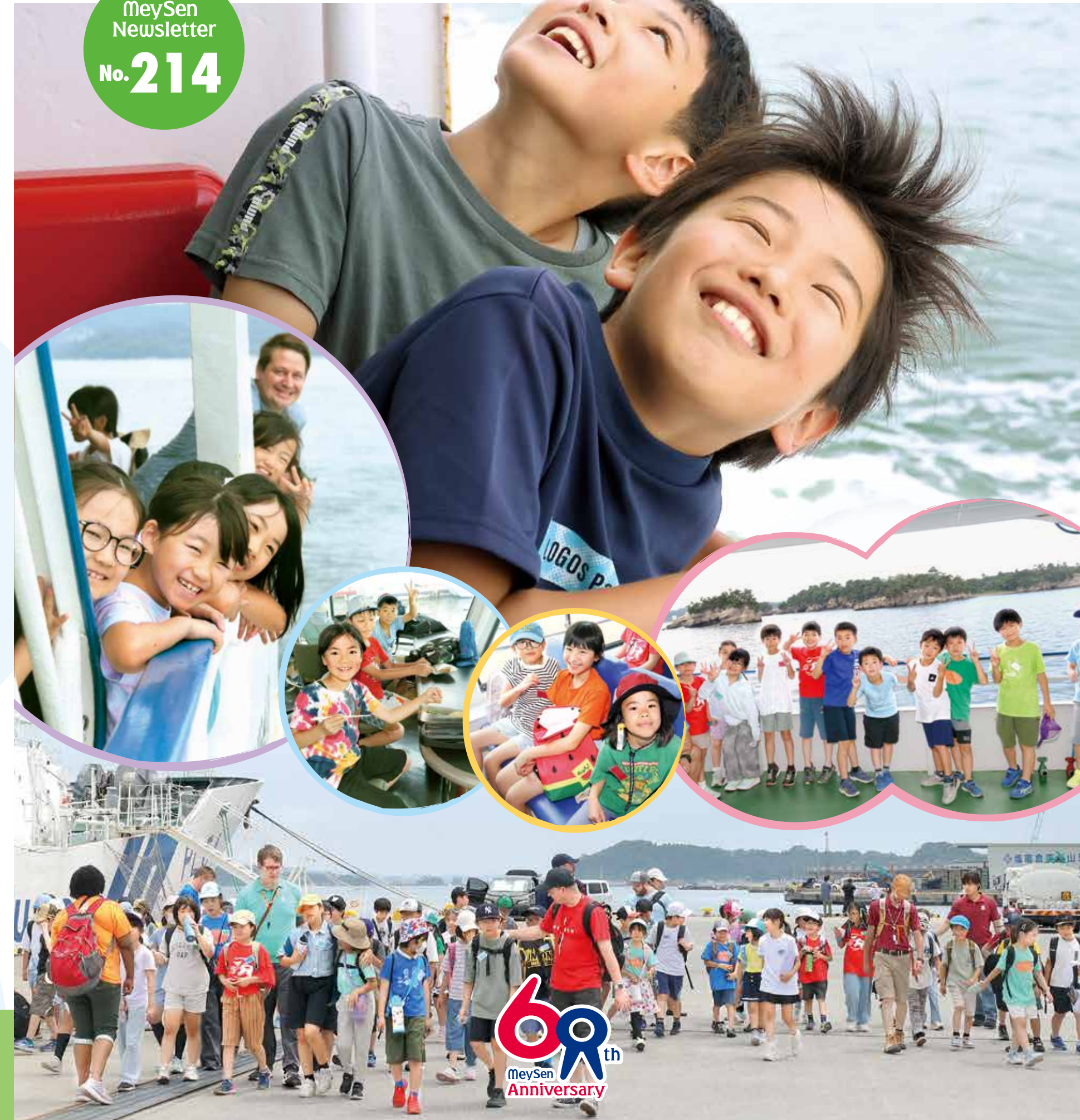
イエス様を信じる人は、この地上では天に属する者として生活します。そしてイエス様の再臨を希望して待ちます。私たちのいまある身体は弱く、朽ちて地に戻りますが、やがてイエス様と同じような「栄光のからだ」、病むことも老いることもなく、死ぬこともない身体をいただき、天国の市民となることを語っている素晴らしい希望の言葉です。

## 聖書

# Friends Spring 2026

「読む」とつながる。「読む」とひろがる。

MeySen Newsletter  
No. 214



さらに、地域一体型の留学支援プログラム「A Way We Learn」も10年前に始動し、地域の企業や個人のみならずの協力をいただきながら、全国的にも稀な取り組みとして発展しています。

### 60年の継承 創設時から変わらぬもの

明泉学園は創立以来、聖書をすべての土台として歩んできました。子どもたちに伝える善悪の基準、園児・生徒・保護者への姿勢、そして運営上の判断においても、聖書の教えを基準としています。

社会情勢や価値観が大きく変化する中でも、神様のことは変わることがありません。それは暗闇を照らす光のようであり、私たちが進むべき道を示す道標です。これからも神様の教えに忠実に歩み、神様に喜ばれる働きを続けていきたいと願っています。

### 次の20年へ 未来へ紡ぐ歩み

これからの20年がどのような時代になるのか、正確に予測することは誰にもできません。世界は目まぐるしく変化し、5年先さえ見通すことが難しい時代です。しかし、天の神様にはすべてが見えており、政治も歴史も主権も、神様の御心の中で進んでいます。

私たちはできる限り先を見据え、計画を立て、子どもたちの将来の幸せのために最善を尽くしてまいります。そして、これからも神様に100%信頼し、知恵と助けを仰ぎながら、導かれる道を歩んでいきたいと願っています。

明泉学園は、この60年間でさまざまな変革を遂げました。これからは地域社会のニーズに応えつつ、努力を惜しまず歩み続けます。地域社会のみならず、保護者のみなさまには、これまでと変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



# HELLO SPRING, HELLO ADVENTURES!



あたたかい春がやってきて、  
新しい学期が始まりました！  
新しい友だちや先生に出会い、  
そしてワクワクの時間がスタートします。  
春の光の中で、みんな一人ひとりが神様に感謝をして、  
元気に過ごしていけますように。  
春の花のように、それぞれきれいに  
のびのび育っていきますように。  
明泉学園の先生たちも、  
みなさんの成長を大切に見守っていきます。

## 一親子で通うはじめての明泉— カンガルークラブは27年目

2000年に開設されたカンガルークラブは、25周年を経て、今年で27年目を迎えました。これまで多くのご家庭に支えられながら、子どもたちとご家族が安心して集える場として歩んできました。

カンガルークラブでは、子どもたちがお母さんやお父さんと一緒に明泉に通えることで、安心した気持ちの中で活動に参加することができます。教室や自然豊かな環境の中で、同年齢のお友だちとさまざまな体験を重ねることは、子どもたちの成長にとって大切な時間となっています。

また、保護者のみなさまにとっても、子育ての不安をベテランの先生に相談したり、同じ年齢の子を持つ保護者同士が交流したりすることで、お互いに励まし合えるような機会となっています。こうしたつながりが、家族みんなの元気につながることを願っています。

これからもカンガルークラブでは、子どもたちが入園前までにお母さんやお父さんとの絆を育み、やがて自然に一人で登園できるようになるように、そして、ご家族のみなさまが永く明泉での生活を楽しめるよう、これからも心を込めて運営してまいります。



代表 大越 恵美先生

カンガルークラブは、入園前に集団生活をする中で、親子とも入園の準備ができるようにとの思いからスタートしました。また、お母さんたちの子育て支援の場となることも願っています。これまで出会ったたくさんの笑顔と思い出に、心から感謝いたします。私たちはお父さまにとって初めての「先生」、そしてお父さまと明泉との出会いをつなげる大きな役目だと思っています。時代は変わっても、親子の絆や愛情は変わらず大切なものです。これからのカンガルークラブも、かけがえのない親子の時間が、あたたかで、笑顔いっぱい、安心してできるものとなるよう努めていきます。

カンガルークラブは、明泉の恵まれた自然の中で四季を感じながら親子で通い、さまざまな活動を通してお子さまの成長を間近で見ることができるところが魅力です。近年、保育園に在籍しているお子さまも、明泉への入園（クローラス、年少）を見据えてカンガルークラブに通われている方が多くなりました。お母さまだけではなく、お父さまの参加も増えています。お子さまの集団生活の第一歩をカンガルークラブで過ごしてみませんか。また、子育て支援の場として、おうちの方を応援しています。子育てのお悩みは、カンガルークラブの先生にぜひご相談ください。



代表 大越 知恵先生



## なおてらクラシック特別編

4手連弾で音色鮮やかなクラシックの名曲を堪能！

今年の音楽鑑賞会では、4手連弾で人気のピアノユニット「Naotera Piano Duo (なおてらピアノデュオ)」の石川奈緒美さんと寺木一希さんに素敵な演奏を披露していただきました。

お二人は2018年にデュオを結成し、「なおてらクラシック」としてこれまで数々のコンサートを開催されています。子どもたちやクラシック音楽にあまりなじみのない方にも楽しんでもらえるよう、分かりやすい解説や楽しいトークを交えながら演奏されるのが特徴です。

音楽鑑賞会当日は、なんとタイプライターや目覚まし時計も登場！かわいらしい音とリズムに会場は大盛り上がりでした。さらに、子どもたちが実際に指揮をする場面もあり、音楽を「聴く」だけでなく「体験する」楽しい時間となりました。

また丸山では、フリーアナウンサーの本間拓人さんがオリジナル台本によるナレーションで参加していただきました。軽快で楽しい語りが増え、子どもたちや先生方の笑顔があふれるコンサートとなりました。

今回の音楽鑑賞会は、クラシック音楽を聴くだけでなく、作曲家について学んだり、指揮を体験したりと、みんなで一緒にコンサートを作り上げる特別な時間となりました。まさにスペシャルな45分間（特別編）でした。



▲写真左から、石川奈緒美さんと寺木一希さん



▲写真左から、石川奈緒美さんと寺木一希さん

### 曲目

- 全学年共通
  - エルガー：威風堂々 第1番
  - アンダーソン：シンクベテッド・クロック、タイプライター
- 1～4年生
  - 「あなたもマエストロ！」指揮体験
  - サン＝サーンス：動物の謝肉祭
- 5～6年生
  - 「ベートーヴェンの生涯～ベートーヴェンってどんな人～」※公演中、「運命」の指揮体験



Naotera Piano Duo  
HP・SNSはこちらから



## 一あたたかな応援につつまれて、未来へ— 「地域ふれあいの集い」の開催

2017年にスタートした地域一体型留学支援プロジェクト「A Way We Learn」は、おかげさまで9年目を迎えました。現在アメリカで留学生生活を送っている3名の高校生を含め、これまでに41名の生徒たちがこのプロジェクトを通じて海外へと羽ばたいています。また、参加くださっているスポンサー企業も115社に広がり、多くのお父さまに支えられながら歩みを進めています。「地域の子どもを、地域の企業で育てる」という想いから始まったこの取り組み。今年の夏には、新たに6名の生徒たちが留学へ出発する予定です。



1月に開催した「地域ふれあいの集い」では、ご支援いただいている企業のみならず、これからご支援をご検討いただいているみなさまをお迎えし、日頃の感謝をお伝えしました。当日は、帰国生の挨拶や、企業のみならず職員との交流の時間もあり、あたたかな雰囲気の中で開催することができました。参加された企業の方からは、「普段の仕事で、学園と一緒に子どもたちの教育に関われることは今までになかったので、スポンサー企業となって、改めて教育の大切さやその力の大きさに気づかれます。寄付の金額以上に成長を見せてくれて、毎年、サポートしている生徒一人ひとりがまるでわが子のように感じられ、うれしく思います」といったお声もいただいています。

みなさまからお寄せいただいたご寄付は、留学生全員へ給付型奨学金として届けられています。生徒たちは、支えてくださる方々への感謝の気持ちを胸に、それぞれの夢に向かって一歩を踏み出しています。来年の「地域ふれあいの集い」は、「A Way We Learn」10周年、そして宮城明泉学園60周年という節目の年となります。これからも地域・企業・学園がつながりながら、子どもたちの未来を応援してまいります。



▲帰国生、三浦オリザさん(Oriza)から感謝を伝えるスピーチ

「地域ふれあいの集い」や「A Way We Learn」などの教育支援にご興味のある方は、各園事務室までお気軽にお声かけください。

## 一その先の学びを知る一日— 英語の先生たちが「秀光中学校・仙台育英学園高等学校」へ訪問！

2月には、英語部の先生たちが学校見学と意見交換を目的に、秀光中学校・仙台育英学園高等学校宮城野キャンパスを訪問しました。フレンドクラブやプレミアエメンタリーを卒業した子どもたちが、その後中学校や高等学校でどのような学習に取り組んでいるのか、実際の授業の様子を見学させていただきました。

見学の途中では、現在ハイスクールに通っている生徒や卒業生が「え、なんで先生たちがいるの!?!」と驚きながらも笑顔で声をかけてくれ、先生たちにとってもとてもうれしい再会となりました。



秀光中学校や仙台育英学園高等学校では、恵まれた学習環境の中で、未来を見据えた教育が行われています。生徒一人ひとりに誠実に向き合い、自信と責任感を持って物事をやり遂げる力を育てようと真摯に取り組んでいらっしゃる先生方との意見交換では、「ともに未来のリーダーを育てていきましょう」という思いを共有することができました。

明泉の先生たちは、これからもこのような見学や研修の機会を大切にしながら、教育についての研究を深め、英語プログラムのさらなる向上に努めてまいります。

※秀光中学校とは入学者選抜の連携協定を結んでおり、受験時には学園より推薦状を発行しております。



## 第18回 全国高等学校 英語スピーチコンテスト 全国大会 優勝!

2026年2月に開催された「第18回全国高等学校英語スピーチコンテスト」全国大会（主催：全国英語教育研究団体連合会）において、リーダー歩実(Nicole)さんが見事、優勝という快挙を成し遂げました。リーダーさんは昨年、県大会を勝ち抜き、秋田で行われた東北大会では出場者12名のうち上位2名に選出。代々木で開催された全国大会は5分間のスピーチの後に2分間の質疑応答の時間もある厳しい戦いでしたが、9つの地区大会を勝ち抜いた18名の代表の中から、堂々の全国1位を獲得しました。



▲テレビでも紹介されました!

さらにその功績が称えられ、「宮城県高校文化連盟賞」も受賞。その受賞の様子はテレビでも取り上げられ、多くの方々に感動を届けました。

リーダーさんは将来について、「国境を越えて、だれかのために何かの役に立ちたい」と語っています。国際NGOや国連機関、あるいはフライトアテンダントなど、将来の進路はまだこれからですが、「どんな仕事であっても、小さな愛を届けられる人になりたい。笑顔や感謝の言葉のような、ささやかな形であっても、愛を伝える人になりたい」と、まっすぐな想いを話してくれました。

英語という言葉を通して、自らの思いを堂々と発信し、全国の舞台上で輝いたリーダー歩実さん。これから世界へ羽ばたくその姿を、心から応援しています。今後のさらなる活躍が楽しみです。



リーダー歩実さん(Nicole)  
高森FC卒業

### スピーチ内容

タイトル「The power of a Box」  
要約：小さな箱でも使いによってはたくさんの可能性があり、変化を生み出し、人を助けるツールになることができる。

生徒会で設置した意見箱がたくさんネガティブな意見ばかりで、なぜそんなにマイナスな意見ばかりなのかと考えました。人の悪いところに目を向けるのではなく、相手のよいところ、感謝できるポジティブな環境に変えられたらと思い「Thank You Box」に変えてみました。クラスメイトや先生など誰かが何かしてくれた際に、小さなことにも感謝の気持ちを持ってように変更し、集まった「Thank You Note」は壁に掲示して、



だれでも見られる「Thank You Tree」を作ってみました。そうしたら学校の雰囲気明るくなり、お互いに感謝を伝えやすい環境に変化してきました。学校全体が明るく、お互いに思いやりを持つことはどんなに素晴らしいことでしょうか。また、ウクライナへの募金箱を近くの市民センターに設置し、苦しんでいるたくさんの方へ小さな愛かもしれないけれど、お届けしました。どんなに小さな行動でも、世界をより良く変える力があると信じます。